

日本・イラン貿易実績の構造分析： 現状と展望（2018-2025）

米国制裁再開後の「構造的変容」と「低位安定」のメカニズム

Executive Summary: 構造的変容の全体像

01 現状 (Status)

歴史的な低水準

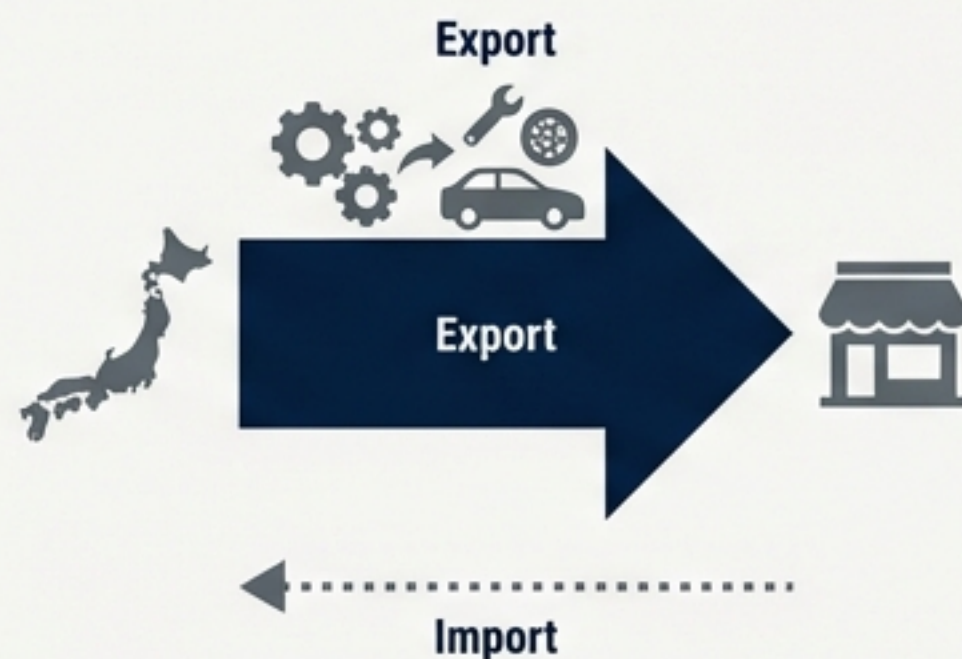
2010年代の数千億円規模から激減し、現在は年間100~150億円規模で「低位安定」している。

Annual Total
~15B JPY

02 構造 (Structure)

大幅な輸出超過

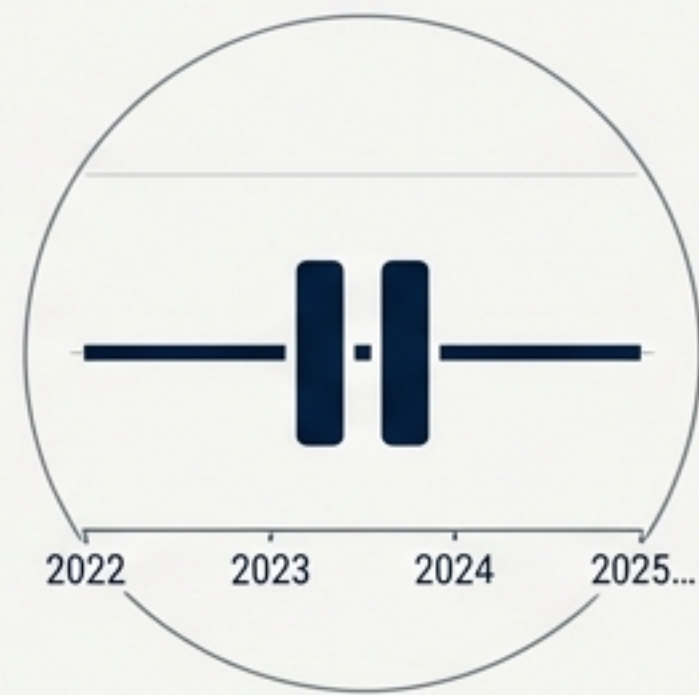
原油輸入は「実質ゼロ」。日本からは民生用機械・自動車部品を輸出する一方的な貿易構造が定着。



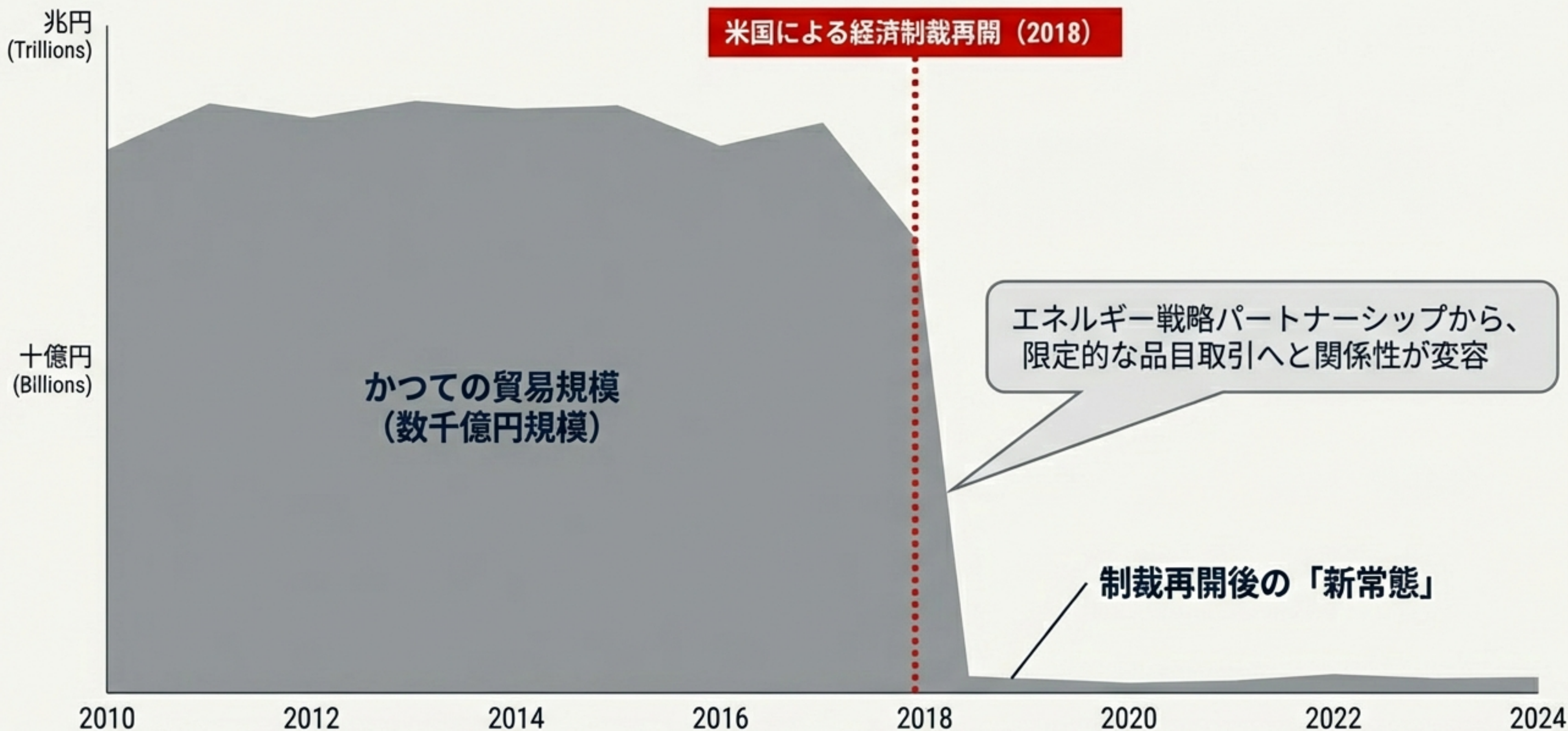
03 展望 (Outlook)

横ばいの継続

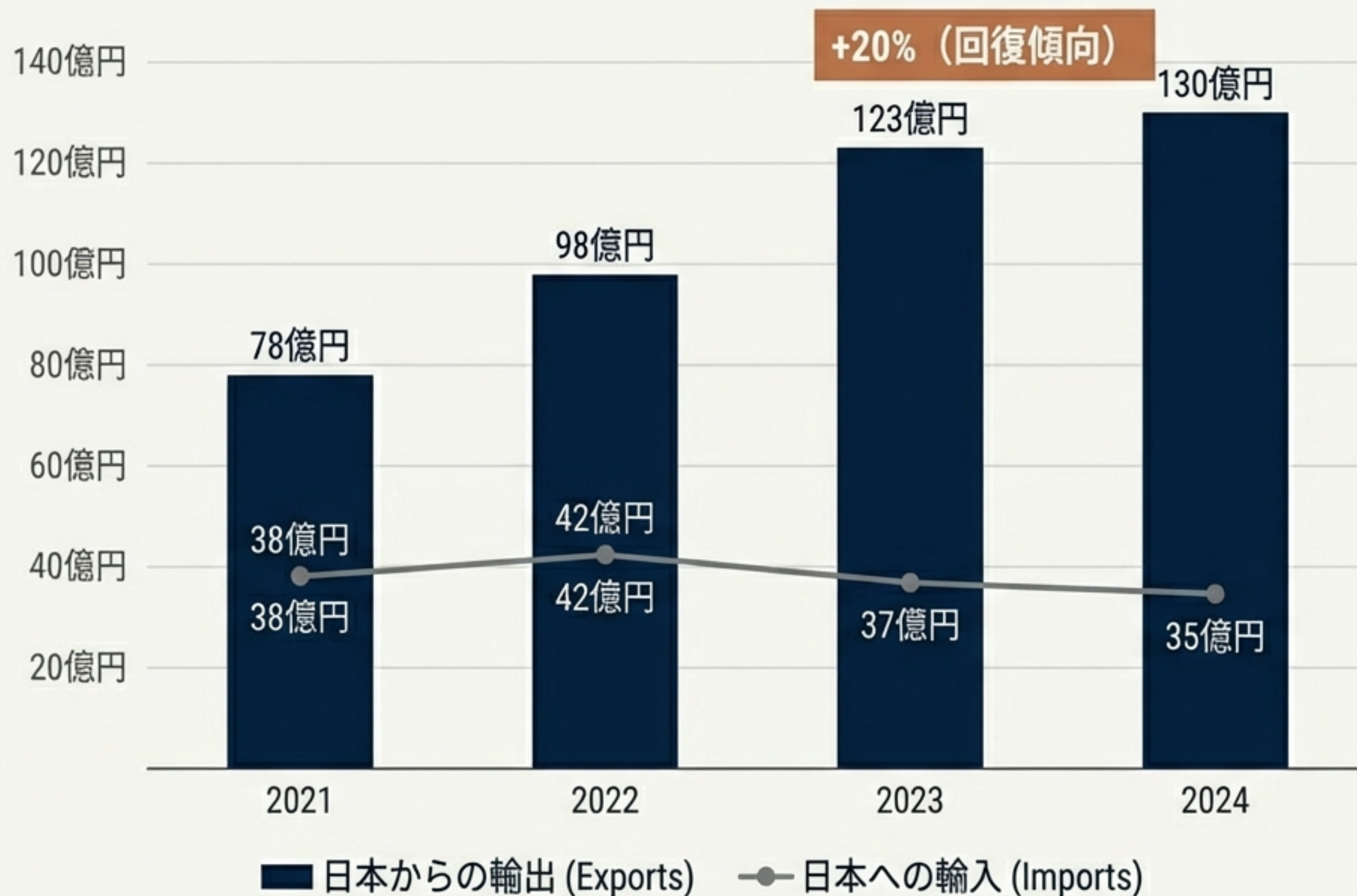
SWIFT排除と二次制裁リスクにより、決済が極めて困難。地政学的変化がない限り、現状維持が続く見通し。



歴史的背景：2018年の「断層」



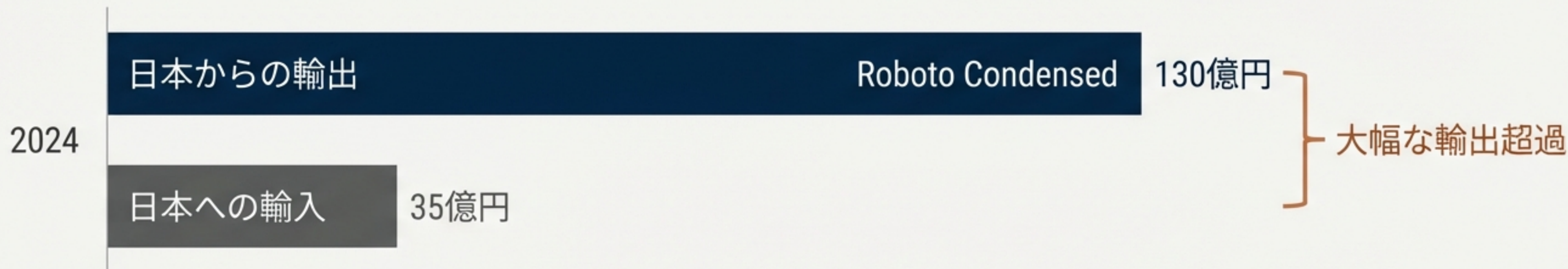
直近の推移：低位安定の中での微増（2021-2025）



Insight:

輸出は2023年に前年比2割増を記録するなど、底堅い動きを見せる。

貿易収支：一方的な供給構造



要因

イラン産原油の輸入停止が最大の要因。

トレンド

黒字幅は拡大傾向：+40億円（2021）→ +86億円（2023）。

結論

日本からの「一方的な供給」に近い構造が定着。

輸出構成：人道・民生分野と産業維持

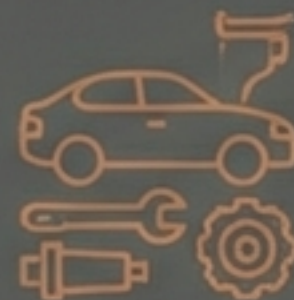
一般機械



- ・ガスタービン部品
- ・ポンプ
- ・建設機械

Note: インフラ維持に必要な産業機材

輸送用機器



- ・自動車部品（補修用等）
- ・一部の完成車

Note: 新車販売から「補修・維持」へのシフト

化学製品・その他



- ・タイヤ等の
タイヤ等のゴム製品
- ・民生用・医療用機器

輸入構成：原油「ゼロ」と伝統産品

実績なし (0%)

原油・石油製品 (2019年以降)

かつての主要輸入品目 (数千億円) は消滅。



食料品
(ピスタチオ、デーツ)



原料別製品
(ペルシャ絨毯)



化学製品
(無機化学)

現在は、制裁対象外の伝統的な農産品・工芸品のみが取引されている。

構造的障壁：金融決済のボトルネック



Secondary Sanction Risk

日本の大手企業は二次制裁リスクを懸念し、取引を自粛。

Settlement Gridlock

第三国経由など複雑なルートが必要で、新規参入障壁が極めて高い。

2025年の動向と今後のシナリオ

2025 Analysis

全体としては低水準での横ばい。

10月等の単月では、非石油製品（食品・繊維等）で輸入額の局所的な回復（前年同月比増）が見られる。

Future Outlook Matrix

Base Case (基本シナリオ)	
現状維持	年間150億円規模での推移が続く。「待ち」の状態。
Condition for Change (変化の条件)	
地政学的変動	制裁解除がない限り、劇的な回復は見込めない。

Strategic Stance: A Waiting Game (好転を待つ持久戦)

総括：制裁下の構造的変容

01. Volume: 低位安定 (Low Stability)

貿易規模は底打ちし、年間100億円強のニッチ市場として定着した。

02. Composition: 構造転換 (Structural Shift)

エネルギーパートナーシップから、民生・補修用機材の一方的な供給構造へと完全にシフト。

03. Constraint: 決済の壁 (Payment Wall)

物理的な物流よりも、金融決済（SWIFT）が最大のボトルネックとして機能し続けている。



データ出典・参考文献

- 財務省貿易統計 (Ministry of Finance Trade Statistics)
- ジェトロ (JETRO) 調査データ
- Report: 「日本・イラン貿易実績の推移」 (Trends in Japan-Iran Trade Performance)